

小学五年

国語

解答と解説

1

問一	ア	21
問二	Ⓐ	22
	エ	22
	Ⓑ	23
	ア	23
	Ⓒ	24
	イ	24
問三	ウ	25

問四	ア	26
問五	A	27
	プ	27
	ロ	28
	B	28
	認	28
	め	28
問六	内	28
	側	28
	か	28
	ら	28
	舌	28

問七	エ	29
問八	⑥	30
	イ	30
	⑦	31
	オ	31
問九	ア	32
問十	ウ	32

2

問一	1	33
	エ	33
	2	34
	イ	34
	3	35
	ウ	35

問二	A	36
	自	36
	分	36
	に	36
	を	36
	大	36
	切	36
	B	36
	抵	36
	抗	36

問三		
た	ヤ	な
か	で	に
ら	す	か
。	ー	頼
	と	ま
	い	れ
	う	た
	人	時
	に	に
	は	、
	じ	笑
	め	顔
	て	で
	会	ー
	っ	イ

(配点)
 ①〔問二〕各4点、他各5点
 ②〔問一〕各3点、〔問三〕7点、〔問四〕各2点、他各5点 } 計150点
 ③④⑤各2点

〔解説〕

1 はらだみずきの「ここからはじまる 父と息子のサッカーノート」(新潮社)から出題しました。父親(拓也)の視点で、息子(勇翔)の挫折と心の成長が描かれています。拓也は今ではめずらしい厳しさを持った父親です。勇翔の成長を願う拓也の思い、はじめての挫折をのりこえようとする勇翔の思いをていねいに読み取りましょう。

問一 A2 知識 関係つけ

《3》蝶が「頼りなげに低く飛んでいく」様子が表現されている言葉を選びましょう。

問二 A2 知識 関係つけ

A 「きり」は「くしたのを最後に」の意味でも使われます。「先月のパーティで会ったきり、顔も見えない。」のように使います。

B 「なだめる」は気持ちを落ち着かせるということ。聡子(母親)は、びりびりした拓也が勇翔をどんどん追い詰めるので、それを止めたのだと考えられます。イ「けいべつ・ウ」勇翔が「とがめる」などは不適切です。

C 「不意に」はだしぬけに、とつぜん、の意味。

問三 B1 関係つけ 比較

勇翔のところに「ボールが来なかった」理由を答える問題です。また、①をうけて拓也が「たしかにな。自分をアピールするには、ゴールが一番手つとり早い」と言っていることから、みんなが自分でゴールをねらいにいつている、という内容

が明確に書かれているウが正解。

問四 B1 具体・抽象

「目が泳ぐ」は、後ろめたいことがあって、それを人から指摘され動揺したときの焦りが表情にでているときに使います。勇翔は「一次は受かっていると思う」と答えています。後からわかるように、本当はそうとは思っていません。だから拓也に詰問されて、うしろめたく感じ焦っているのです。イ「やめさせられる」、ウ「一次は受かっているというのは自分の思い込み」、エ「どうすれば父の機嫌が直るのか」などの部分が不適切。

問五 B1 理由 関係つけ

線③前後に、拓也が勇翔の実力では落ちる、とはつきり伝えた意図は書かれていません。しかし、読み進めると、3ページのの中頃に「父さんは勇翔に感じてもらいたかったんだ。おまえと同じ夢を持った子たちが、今どの辺を歩いているのか。自分が、どのあたりを歩いているのか」というように、セレクトションに連れてきた理由を説明する場面があります。そして「認めろよ。おまえは、へたくそなんだよ」と続いていますね。プロをを目指すのなら、自分の実力を正確に把握しておかなければならないからこそ、このような厳しい態度に出たことが分かります。この部分から答えを作りましょう。

問六 B1 置換

直前の「右腕を上げ、目の高さで横に拭った」は、涙を拭いた、ということですから、その前で泣きそうなのをこらえていたことが分かります。そのあたりからの勇翔のしぐさに注目し

て探(さが)しましょう。

問七 **B1** 理由 比較

——線⑤のように、堰(せき)を切ったように感情が爆発(げくはつ)する部分はよく出題されます。泣きたいのをこらえている時に、やさしく受け入れられて、気持ちが緩(ゆる)んで泣き出してしまふ、というのはよくあるパターンですね。これもそうです。不合格だった勇翔に、家族は結果のことには触(ふ)れず、何事もなかったように、やさしく勇翔を受け入れます。そのことが、泣くのをこらえていた勇翔の張りつめた気持ちの糸を切ったと考えられます。ということで答えはエ。ア「くじけさせようとする父」、イ「父に、自分が怒(いか)りを覚えている」、ウ「同情してくれる」などの部分が不適切。

問八 **B1** 具体・抽象 比較

指示語の問題は必ずその指示語を含む一文を読んでから、前にもどって指示語の内容を把握(はあく)するくせをつけましょう。
——線⑥：わかって来た甲斐(かひ)があつたといえるものはないか、と考えると、勇翔の今の実力、といえるので、答えはイ。
——線⑦：上には上がいるのだから大変なことだ、といえるものはなにか、と考えると、プロを目指すこと、ですね。

問九 **B1** 推論 比較

拓也が何度も「ここからはじまるんだ」と言っていることから、夢を追う勇翔をサポートしようという気持ちが読み取れます。一方で、「鼻の奥(おく)に痛みを感じながら」とあるように、幼い息子に現実をつきつけたこと、息子が厳しい道を進むことに

ほろ苦い思いも抱えていることもわかります。(頼りなげに飛ぶ薄紫色(うすむらさき)の蝶は勇翔と重なりますし、不意にぼやけた親子の姿、というのは、今後、拓也と勇翔が楽しいだけのサッカーでつながることができないことを示唆(しそく)しています。)ここから答えはア。イ「お昼ご飯を前にして、気持ちをすっきり立て直した」、ウ「勇翔の自信を失わせるような発言をしたことを後悔(こうかい)」、エ「うしろめたく」「憂鬱(ゆううつ)」などの表現が不適切。

問十 **B1** 推論 具体・抽象

「エビのペーコン巻き」は勇翔の好物です。また、はじめての挫折(さくせつ)をのりこえて前に進もうとする弟にこれを差し出した姉の気持ちを考えましょう。

2 鴻上尚史(こうしょうし)「空気」を読んでも従(したが)わない(岩波書店)から出題しました。「空気を讀む」ということは、学校でも、友人同士の会話でもよく使われます。これはいまに始まったことではなく、日本には「世間」が深く根付いているからです。多様性(たようせい)や個性(こんせい)が叫(こゑ)ばれる時代、「世間」というものは何かを捉(とら)え直すことが必要(ひつや)です。

問一 **A2** 知識 関係つけ

文を接続する言葉は、前後の文の関係をよく確認(かくにん)して入れましょう。《1》を含む文は前の文の理由説明、《2》の前後は添加(たっか)の関係、《3》の前後は逆接(ぎゃくせつ)の関係になっています。

問二 **B1** 理由 関係つけ

——線①の直後に「この国の文化と関係がある」と示(し)されて

います。ですから、「イヤと言えない」この国の文化について説明している部分を読みましよう。アメリカ人スタッフとのやりとり、満員電車で仲間に席をとるおばさんが例としてあげられ、その後にまとめられています。だいたいあとになります、「日本人は、基本的に『世間』に生きています。自分に関係のある人達をととても大切にします」とあります。字数が合わないときは、似たような表現を探しましよう。

問三 B2 理由・推論

——線②と同じ意味の表現「僕は衝撃を受けました」に注目します。その文の直後に「そんな顔で『イヤです』と言う人を見たことがなかったのです」とあります。前の文の補足説明をする「のです」ですね。この部分を使えば理由が説明できるということになります。「そんな顔」は「笑顔」を指します。断るときに申し訳ないと思うのは当たり前と思っていたけれど、そうではない人がいることに驚いているのです。ですから、「日本人である筆者は、頼まれごとを断るのにストレスを感じるから。」という答えでは不十分です。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問四 A1 知識

「世間」は日本に根付いた文化なので、いろいろな慣用語でも使われています。知らなかった言葉はこれを機に見直しておきましょう。例文を示しておきますね。

①財布を落としてしまっただけで、誰かが交番に届けてくれたよ。渡る世間に鬼はない、とはよく言ったものだ。
②あの人は世間知らずだから、お酒には10%の消費税がかかることを知らなかったんだよ。

問五 B1 具体・抽象

「キー」はここでは、問題を解く手がかりのこと。つまり、——線④は、「世間」と「社会」という言葉が、「あなたの生き苦しさのヒミツ」という問題を解く手がかりになる、と言っているのです。あとは「問題を解く手がかり」を三字で言い換えた表現を探しましよう。

問六 B1 置換

「具体的」とは、そのものようすや形がすぐに思い浮かぶほどはつきりしている様子のこと。つまり、皆が思い当たる例を出すことで「具体的に」説明することができます。この場合も例があげられていますね。例を出すときの接続語を探しましよう。

問七 B1 具体・抽象 比較

「この話は何を説明するための例ですか」と聞かれているので、この団体旅行のおばさんたちの話のまとめの部分を探します。すると、「つまり、このおばさんは、自分の『世間』を大切にしているのです。∴日本人は、基本的に『世間』に生きています。∴けれど、自分に関係のない『社会』に生きる人達は、無視して平気なのです。」とありますね。これに合致する選択肢を探しましよう。「つまり」などの表現はまとめの表現なので、

注意しましょう。

問八 **B1** 関係つけ

「世間」「社会」についてまとめて書かれている部分（問七参照）部分を読みましょう。

問九 **B1** 理由

理由は——線⑦の直後から長々と書かれています。ただ、読み進めると、「どうか、より正確に言えば、関わり方が分からないのです。」とあるので、答えはア。イは本文に示されていません。エ「無視するべき存在」が不適切。ウもこの女性を助けない理由としては示されていません。

問十 **B1** 具体・抽象 比較

選択肢と本文を突き合わせて確認していきます。ア：筆者は本文中で日本人が「世間」に縛られていることを指摘していますが、「悪い慣習」「改めるべき」という強い表現はしていません。イ：「当然のことだと思っている」の部分が不適切。エ：「身近な人が困っている見ぬふり」の部分が不適切。「身近な人」は「世間」に生きている人です。

3 **A1** 知識

部首を問う問題です。部首は、その漢字の意味に関係するので、漢字の意味と結び付けて覚えておくことが大事です。

- ① 「右」の部首は「くち」です。他の字は「くにがまえ」。
- ② 「想」は「こころ」です。他の字は「きへん」。
- ③ 「空」は「あなかんむり」です。他の字は「うかんむり」。
- ④ 「聞」は「耳」です。他の字は「もんがまえ」。

4 **A1** 知識

四字熟語の問題です。

- ① 「一朝一夕」はひと朝、ひと晩の意味から、わずかな日時、わずかな時間、という意味で使われます。漢字でも問われることがありますので、覚えておきましょう。

- ② 「一日千秋」は一日が千年にも感じられるほど長く思われること。 「千秋」は「千年」という意味です。「一日千秋の思い」という形でよく使われます。